

Seaguliy

シーグリー

シーグリーとは
市の鳥カモメ (seagull) と市の
花ユリ (lily) を合わせた造語。
ユリの花言葉のように純粋・
無垢に患者様と向き合います。

三国病院の訪問看護ステーション

令和5年5月25日に三国病院訪問看護ステーションが設立され、現在まで約2年弱が経過した。登録患者数は順調に右肩上がりの推移を示し、現在は4名の看護師がチームとなって1日平均7～8件の訪問を担当している。本日はステーション設立当初から現在に至るまで肩の要を担う大嶋主任看護師に話を伺った。

訪問看護のケアとはどんなものか。はじめにこの仕事で心がけていることを尋ねた。訪問までに患者情報を確認すること、訪問時刻を守ることはもちろんだが、大嶋主任は「患者宅にお邪魔するので、その患者に合わせるように対応することが大切」だという。実際に看護や介護を行うとき、部屋にある物の位置を動かしたり形を変えたりすることが必要になるケースがある。そんな時彼女らは一声かけて、触ったり動かしたりしている。部屋に隠れる危険を回避するための物理的配置を提案する場合も同様である。病院には病院の規則があるように、患者宅にはその家庭のルールがある。病院だったら「患者に危険リスクがある」と察知した瞬間に対応できるが、患者宅では患者や家族の意思を尊重した対応が肝要である。

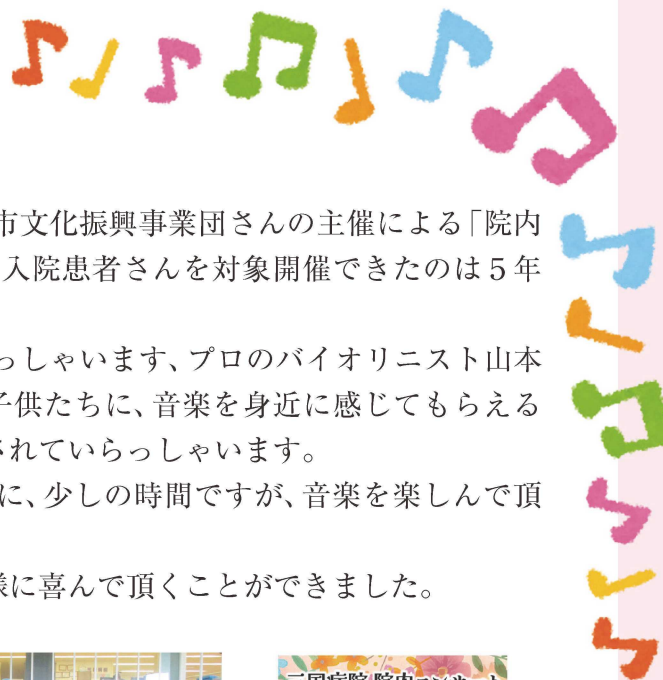
つづいて実際に患者宅で行う内容を尋ねた。「最初にバイタルの測定を行い、次に、患者によって違うのですが、薬の管理や創処置や点滴などを行っています」。看護や介護の際は患者の基礎疾患の状況確認と体調管理、皮膚観察も欠かさない。4人は看護師の能力を遺憾なく発揮し、患者に寄り添った重層的で手厚い支援を行っている。

彼女たちは訪問することで気づいたことがあると言う。大嶋主任は「患者は自宅で生活したい、という強い気持ちを持っているんです」と、やや声を大きくして語る。「だから患者の思いに応えたケアを自宅ですてあげたいんです」。大嶋主任の身ぶりを交えて説明する姿勢、しっかり前を見据える視線から、患者を尊重する気持ちの強さが伝わってくる。やっぱり患者は自宅がいいのだ。そして大嶋主任の話は家族にも及び、「家族にできない介護を、家族は訪問看護に求めている」と語った。リスクを伴うシャワー浴や入浴介助、おむつ交換などのことである。患者や家族の思いを受け止めて介護を行う彼女たちの意識が、三国病院訪問看護ステーションの深層に脈々と流れている。この思いが、患者や家族からの信頼に繋がるのだろう。だがしかし、彼女たちは現状で満足していない。大嶋主任の瞳には具体的な課題が見えているという。彼女たちの向上心は旺盛だ。

訪問看護で嬉しかったことを尋ねた時、大嶋主任の頬が思わず緩んだ。「患者から元気が出るわー、また来てね、と言われた時、そして何より患者の元気になった姿を見る時」。患者の喜びと自身の喜びを重ねる姿に、医療人として敬意を表さずにはいられない。



院内コンサート



昨年9月26日に、当院のエントランスホールにて、坂井市文化振興事業団さんの主催による「院内コンサート」を開催しました。新型コロナの影響もあり、入院患者さんを対象開催できたのは5年ぶりのことです。

お招きしたのは、「越のルビーアーティスト」でもいらっしゃいます、プロのバイオリニスト山本紘子さん。プロとして活動されている傍ら、学校などで子供たちに、音楽を身近に感じてもらえるような取組、音楽アウトリサーチ活動にも積極的に参加されています。

普段、退屈な入院生活を送っていらっしゃる患者様方に、少しの時間ですが、音楽を楽しんで頂ければと、協力させて頂きました。

生のバイオリンの音色を初めて耳にする方も多く、皆様に喜んで頂くことができました。



市民公開講座



昨年11月30日に坂井市役所本庁1階交流ホールで市民公開講座を開催し、約60名の方に来場して頂きありがとうございました。当院整形外科大木副院長より骨折について詳しい内容の講演や理学療法士、薬剤師から転倒をテーマに講演がありました。以前に転倒されている方、骨折されている方も来場されており転倒に対して注意すべきことや、転倒を予防するために必要な運動等に対して積極的に質問をされている方が多く、来場者の日頃の生活に対する関心の高さが伺えました。講演外の時間には骨密度や血管年齢の各測定コーナーを行い測定結果に対して質問されている方も多くいました。来場者からのアンケートでは、講演の感想をはじめ、これからも継続して開催して欲しいとの声を多く頂戴しました。今後も多くの方に来て頂けるような内容を検討し定期的に開催していきたいと思います。



地域で取り組む感染対策

新型コロナウイルス感染症が2020年1月にわが国で最初に確認され、わたしたちの生活が大きく影響を受ける中で、明らかになった課題を踏まえ国では令和6年7月に「新型インフルエンザ等政府行動計画」の改訂が行われました。「新型インフルエンザ等」とは新型インフルエンザや新型コロナウイルス感染症以外も含めた幅広い感染症を指し、この行動計画はこれらの感染症の危機に対応するものです。新型コロナウイルス感染症が落ち着いた現在は、人が集まる大型のイベントも開催され、旅行も自由にできるようになったため、海外からの多くのインバウンドも予測されます。これらは同時に感染症の集団発生も起こる可能性が増えてくるということです。

このような有事に対して、平時より地域の関係機関のネットワークを強化し、継続かつ実働的な体制の構築を図ることを目的に12月19日に坂井健康福祉センター管轄内において研修と訓練が行われました。内容は患者搬送や検体搬送の実地訓練、麻疹患者が三国病院で診断されたという想定での机

*麻疹(はしか)について

- ・原因ウイルス: Paramyxovirus科 Morbillivirus属麻疹ウイルス
直径100~250nmのエンベロープを有する一連鎖RNAウイルス
- ・感染経路: ヒトからヒトへの空気感染、飛沫感染、接触感染
- ・潜伏期間: 10 ~ 12日
- ・感染期間: 発症1日前~解熱後3日(または発症消失後5日)
- ・感染力: 極めて強い。インフルエンザの約10倍。
免疫を持っていないものが感染するとほぼ100%発症。
すれ違っただけでも感染し、伝染性感染症の中では最も感染力が強い。
一度感染し発症すると一生免疫が持続する。

上訓練です。医療・介護施設ばかりでなく、学校、消防、行政機関など多くの職種が集まり、訓練と意見交換を行いました。改めて、麻疹*のような感染力の強い感染症が発生したときには、多くの人や機関を巻き込み対応に苦渋するということがわかりました。住民の皆様の協力も必要で、ひとりひとりの平時からの感染対策や免疫をつけるためのワクチン接種が感染を広げない、うつらないためには重要なポイントとなります。

年末年始になり、ニュースでは全国的にインフルエンザが警報レベルになってきたことや、中国でのヒトメタニューモウイルス感染症の流行のニュースが報道され、風邪症状のある方の来院も増えてきました。新型コロナウイルス感染症も続いています。病院内ではICT(感染対策チーム)が中心となって院内感染対策防止に努めていきます。地域の皆様のご協力もよろしくお願いいたします。

坂井市立三国病院 ICT(感染対策チーム)



坂井健康福祉センター主催「新型インフルエンザ等対策地域調整会議」
机上訓練、患者搬送実地訓練の一場面

院内接遇研修会

「患者様の立場を尊重し、心のこもった優しい良質な医療を提供する」ための接遇について研修会を開催しました。毎年恒例のこの研修には、多くのスタッフが参加し、日々の気づきを深める機会となりました。

みなさまに少しでも気持ちよく病院を利用していただけるよう、これからも一生懸命努めてまいります。



福井街角放送株式会社から ポータブルラジオ寄贈

コミュニティFM放送局の福井街角放送株式会社より、「病院にラジオを贈ろう！」キャンペーンの一環として、9月2日、防災の日になみ、手回し充電式のライト付きラジオ10台の贈呈式が行われました。

ラジオは、ナースステーションを通じて入院患者の娯楽用として活用しますが、災害発生時の情報収集などにも活用します。





肺がん健診と脳ドック

●肺がんCT検査とは

精密検査で用いられるCT装置を使って肺がん健診を行います。目的部位を肺に限定することで被ばくをできる限り少なくした検査です。

この健診で得られる2mm程度の薄い画像を医師が読影することで、レントゲンでは発見できない小さな早期肺がんの発見が可能です。また、がんだけでなく肺気腫や肺炎などの病気も見つけることができます。X線を使っているので被ばくはありますが、通常の胸部CT検査の1/10程度です。

検査がおすすめの方は、50歳以上で喫煙中または禁煙開始より15年以内の方、ヒ素・クロム・石綿等の職業暴露歴がある方、COPDや肺線維症の方、がんの既往がある方など。費用は14,700円（人間ドックのオプションのみ）となっています。

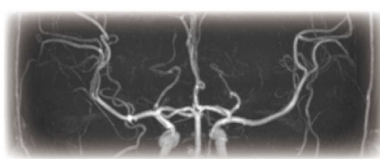
●脳ドックとは

発症していない脳梗塞、くも膜下出血の原因となりうる脳動脈瘤など、脳に関する疾患を早期に発見するための健診の一つです。当院ではMRI装置を使って、頭の断面の画像と頭部～頸部の動脈の画像を撮影しています。

放射線を使用していないので被ばくがなく、検査薬を使用せず血管の画像が得られる特徴があります。一方、磁場や電磁波を利用しているので、ペースメーカなど医療機器を埋め込んでいる方や体内金属がある方は検査ができない場合があります。

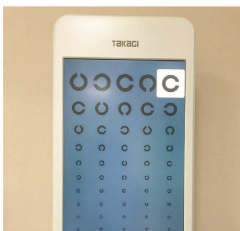
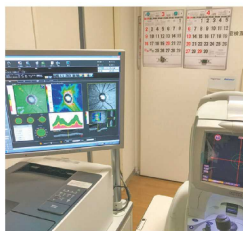
検査がおすすめの方は、中高齢者、脳卒中や認知症の家族歴がある方、高血圧・糖尿病・脂質異常症の方、肥満気味の方、喫煙される方など。費用は脳ドック単独なら29,337円、人間ドックに併設なら28,006円となっています。

ご興味のある方は当院ドック室までご連絡ください。



診療科紹介 眼科

緑内障は日本人の途中失明の原因の第一位です。一度失われた視野は二度と戻らず、しかも必ず進行していく病気です。点眼やレーザー、手術により眼圧を下げることで、視野障害の進行を遅らせます。例えば50歳の人なら80歳になった時に視野を多く残せるように、80歳の人なら、今の視野を出来るだけ維持するように。従って、緑内障は早期発見、早期治療開始することが重要です。一般的な検診では視力検査や眼圧検査しか行われないことが多く、日本で緑内障の8割を占めるのは正常眼圧緑内障の診断ができません。40歳以降の方は一度眼科受診をお勧めします。



認定看護師紹介



感染管理認定看護師
北林 梨恵

この度、感染管理認定看護師の資格を取得しました北林です。三国病院の看護師として17年が経ち、コロナ禍を経験し、感染管理認定看護師の看護副部長と関わる中で感染管理認定看護師の役割が病院にとって重要であることを実感しました。なりたてほやほやの私ですが、自分が学んだことや経験したことを活かし、病院だけでなく地域にも貢献できるよう活動していきたいと思っています。

column

映画『スター・ウォーズ』の監督であるジョージ・ルーカスが師事した男にジョーゼフ・キャンベルがいる。キャンベルは世界中の神話から英雄伝説の型を見出した男だ。英雄は使命を持って原郷から出立し、新しい世界を創りだす。三国病院に訪問看護ステーションを創り上げた4人のパイオニアたち、彼女たちが英雄に見える。

